

これから数十年の間に日本の人口は急速に減少します。その原因である少子化について、どう考えればよいでしょうか。

少子化とその結果としての人口の減少は、私たちの生殖をめぐる選択を集計した結果です。私たちの選択が経済全般にインパクトをもたらすことで、社会の行く末を大きく左右することになります。人口急減時代を生きる私たちは、その影響をまともに受けながら、次の時代へのスムーズな移行を可能とするために、個人としてだけではなく、社会としての選択を迫られています。人口論の歴史をたどると、その時々が専門家が様々な問題提起を試みてきたことがわかります。その意義や限界を理解したうえで今日の人口問題について考えることが、私たち一人一人に求められているといえるでしょう。

そのような状況のなかで、本書は、歴史から学ぶことを重視しつつ、出生、死亡、移動といった人口現象とそれに関連する政策課題について考えを深められるように工夫したものです。

テキストを書かないかとお声かけをいただき、出版に至るまでのご支援をいただいた法律文化社の田麿純子様に、厚く御礼申し上げます。

2017年5月 杉田 菜穂